

# 令和3年度 学校経営計画

東京都立晴海総合高等学校

校長 玉川 弘文

## 1 目指す学校

人間尊重の精神を基盤にして、次の学校像を目指す。

- ☆個性的で創造性や国際性に富む感性豊かな人間を育てる学校。
- ☆特定の分野について優れた能力や意欲をもつ生徒を伸ばす学校。
- ☆生徒に充実感・満足感を味わわせる学校。

## 2 中期的目標とその達成に向けた方策

総合学科の教育活動を基盤とした本校独自の学校づくりを推進して、都民の信頼と期待に応え、中学生・保護者等に選ばれる学校づくりを実現する。

理数教育重点校として、総合学科の柱である「課題研究」の改善を、大学や専門学校・企業との支援のもと行いながら、公立高校の使命として中央区の理数教育（理科・数学・情報等）の基盤づくりをする。学校グラウンドデザインを確立するとともに、社会に開かれた教育課程を実現し、カリキュラム・マネジメントにより、教育課程を編成・実施・評価・改善する。

### (1) 学ぶ意欲を高める

- ・生徒による授業評価の結果や進路指導の充実度、進路相談の利用度の調査・分析に基づき、学習指導要領に即した授業の実施と全校的な相談活動体制の構築を図る。
- ・外部の力も活用しながら、生徒に「学び方」を習得させ、将来にわたって学び・考える力を育成する。
- ・学校行事や生徒会活動・部活動・資格・検定・大会参加を通して、達成感や感動を積み、学校への帰属意識を育てる。

### (2) 自己責任能力を高める

- ・ルール・マナー・モラル等を遵守する姿勢・態度を育て、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・自らの責任のもとで科目選択をしたことの意義を理解し、責任をもって最後までやり遂げる学習への強い意思を育てる。

### (3) 個性と創造性を伸長する

- ・2・3年次における「プレ課題研究」「課題研究」の探究活動としての学習を通して、研究の方法を学び、論理的に考えを表現できる生徒を育成する。
- ・主体的・対話的で深い学びを追究し授業の構成や指導法を見直し、研究の視点や方向性を活かした指導体制を整える。

### (4) 総合学科の特色を広範にアピールする

- ・他の総合学科と連携し、総合学科を希望する中学生数の増加を図る。
- ・優秀な卒業生の実績を積極的に大学、中学校、学習塾等都民にアピールする。
- ・学校説明会、学校見学会、授業公開、部活動体験、中学校・塾訪問、ホームページの更新等、多様な広報活動に積極的に取り組み、本校の特色ある教育活動の周知に努める。

### (5) 人材育成と職場環境の整備

- ・自己研鑽とOJT活動で人材育成を推進する。
- ・ハラスメントやサービス事故のない職場を維持する。クリーンデスクや良好なコミュニケーションを図り同僚性を高めサービス事故をゼロにする。

## 3 今年度の取り組み目標とその達成に向けた具体的方策

「ルネサンス晴海」の2年目として、新たなステージに立った。入試倍率回復の継続と記念すべき30周年に向け、

- ① 生徒のためには、前例にとらわれず、スピード感を重視しながら協働的、組織的に課題を解決する。
  - ② 卒業時には入学時以上の学力レベルを保障する教育活動を行い、模試分析会を通して検証する。
  - ③ 生徒・保護者から信頼される学校にすることを急務とし、「学校評価アンケート」で懸念の項目は改善する。
- 以上より、受検生からは「入りたい学校」、保護者からは「入れたい学校」、地域からは「応援したい学校」にする。

## (1) 教育活動の目標と方策

### 【学校経営】

- 1 P D C A マネジメントサイクルと執務ガイドラインを活用して、組織的・効率的な学校運営を推進する。
- 2 10年後を見すえた新教育課程の編成を行う際には、STEAM教育、Society5.0、SDGs、インクルーシブを意識し、系列の発展と学校設定科目を魅力ある内容にする。
- 3 4つの推進校、研究校に対して、中心となる分掌を核とし全教職員が組織的に取り組み、実践し、報告や発表に向けた協力体制を確立する。
- 4 学校グランドデザインを常に最適なものとするため、時代のニーズに合った内容を取り入れ、先進校を視察し、全教職員が研鑽を積む。
- 5 オンライン教育を推進し、教育活動に学習クラウドサービスを効果的に取り入れていく。
- 6 年度当初に組織目標に定め、中間報告を9月、年度末総括を1月末に行う。
- 7 教職員のライフワークバランスを進めるため、仕事のムダムラの検証結果から、業務の効率化と外部機関との連携、デジタル技術を活用し生徒・保護者等に遅刻・欠席を含めた様々な連絡や会議・授業等の効率化を図る。また、年10回以上の定時退勤デーを設定し、超過勤務削減の意識を高める。
- 8 経営企画室において、経営参画ガイドラインを活用して、資質・能力と経営参画意識の向上を図る。
- 9 研究部と教務部を中心として、学校が直面する課題を整理し、校内研修等を行う。
- 10 未来の危機管理に向け、コロナ禍での学校活動の記録を紀要にまとめる。
- 11 英語の4技能を高めるため、全生徒が外部試験による英語力判定及び音声・リーディングソフトを活用し全生徒の使える英語力を高める。多読の授業等で、洋書貸し出し数を増やす。
- 12 いじめなどの兆候の早期発見・早期対応、体罰や暴力・暴言等の根絶に向け生徒情報を共有し、命の大切さを指導し、生徒部主任・管理職への報告・相談体制を整え、高等学校生活指導指針に基づく指導を徹底する。
- 13 全教科で教科主任を中心に「確かな学力」の育成、教科の抱える課題の解決等に組織的に取り組む。
- 14 教員の資質を高めるために大職員室・各教科職員室のクリーンデスクを徹底、個人情報紛失防止、入選業務などで服務事故をゼロにする。
- 15 家庭状況・督促状況の連絡を密に行い、授業料及び諸費用の滞納を組織的に防止する。

### 【学習指導】

主体的・対話的で深い学びを実践するとともに、生徒の自己実現に向け、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用して課題を解決するための能力を育成する。

- 1 「学力スタンダード」を「応用」レベルに設定し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図り、学力の定着や学びの姿勢を育成することで、保護者の信頼に応えられるよう組織的に取り組む。
- 2 高めに目標設定し、発問の工夫と振り返りを行うことで、「深い学び」と「探究」の授業を実践する。1回以上は公開し全教員の相互授業参観をとおして、教科指導・授業技術の改善を推進する。
- 3 豊かな心の育成を目指し、読書活動の充実を図り、言語活動を推進する。
- 4 本校の系列を支える科目、特色ある学校設定科目の授業到達度の確認と、さらなる発展的学習や進路実現につながる各種資格・検定や大会（コンクール）に積極的に取り組む。
- 5 定時にはじめ、定時に終了する授業を行う。生徒は、開始前に授業準備をする。
- 6 課題・小テストの実施、自宅(授業前の自学・放課後)学習に取り組ませ、主体性を育てながら「学習習慣の定着」を図る。新設するチューター制度を活用し、自学自習と自宅(授業前の自学・放課後)学習とを支援する。
- 7 オンライン学習を活用し、反転学習をすることで自学自習の定着と学力向上を図る。
- 8 年2回の「生徒による授業評価」を基に授業改善に努め、全教員がICTや学習支援クラウドサービス等を等活用したわかりやすい授業を展開し、主体的・対話的で深い学びを追究する。検証は学力スタンダード(学力向上推進委員会)で行う。
- 9 外部機関との連携を図り「課題研究」及び「プレ課題研究」に対する教員の意識と指導力を高める。特に、仮説の立て方、指導方法、評価方法について教員研修を実施する。
- 10 生涯を通じてスポーツに親しむ態度・意識を高め、そのための基礎体力を向上させる授業を展開する。
  - ・体力テストにおける体力合計点を毎年1ポイント以上アップさせ、東京都平均以上になるようにする。
  - ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、オリパラ委員会・各教科及び各年次連携の下、地域連携をも視野に入れ、組織的・計画的に具体化し実践する。

### 【生活指導】

「生活指導統一基準」に基づき、基本的な生活習慣の確立、「自己責任能力」の育成を図る。

生徒・保護者・地域からの相談や問い合わせには、わかりやすく丁寧に対応する。

- 1 信頼される言葉遣いを心がけ、人権尊重の理念「人権を相互に尊重」を広く定着させる。
- 2 定時の登校や学習時間等のタイムマネジメントスキルを向上させながら、晴海生としての誇りをもたせる。
- 3 教職員の共通理解の下、日常の遅刻防止・身だしなみ・挨拶の指導に加え、「遅刻・身だしなみ週間」を年5回行い、「自己責任能力」の育成を図る。
- 4 いじめやネットトラブル等の生徒の問題行動に対し未然防止、早期発見・早期対応を組織的に行う。
- 5 学校・家庭・地域社会との緊密な連携の下、公共の場や交通機関でのルール・マナーを守れるよう、生徒の健全育成を進める。
- 6 式典や全校集会等の節目の機会に制服の正装着用等を徹底し、けじめのある態度を育成する。

#### 【進路指導】

進路指導研究校として、組織的な進学指導体制を図る。相談部主導の模試分析会等を各年次2回以上行い、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜それぞれの進学指導力等の向上を図る。

理数教育重点校として、本校の探究学習の核となる課題研究に外部人材による指導を取り入れ、課題研究の学びを進路実現の志望理由に結び付ける取り組みを強化する。

生徒一人一人の進路実現に向けて、1・2年次の三者面談は1回以上、3年次は三者面談を就職や大学・専門学校との出願の前等に2回（8月末・12月末まで）以上行い、保護者・生徒の信頼を得る。

- 1 3年次担任、1・2年次及び教科の代表、部活動顧問による模試分析会を行い、生徒の受験先・受験形態と学力を把握し相談や進路実現計画に活かす。また、模試は全生徒が受験し、授業の定着を図る定期考査や小テストとの乖離を検証することで、授業改善や学力向上の一助とする。
- 2 相談室の資料や入室しやすいレイアウト等を工夫して活用度を高める。
- 3 相談部が主導となり長期休業日中・放課後等に、基礎学力向上、応用力養成を図る講習・補習を主催し進路実現を目指す。
- 4 受験科目の定期考査は共通問題で行い、また記述式問題を取り入れることで、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- 5 多様な大学入試制度を調査し、受験生が的確な大学選択ができることで、信頼される進路指導をする。
- 6 入学後も総合学科の仕組みや本校のルールを丁寧に分かるまで説明し、主体的な進路実現を図る。
- 7 外部機関と連携し、大学説明会の実施・課題研究の支援を行い、進路を考える幅を広げる。
- 8 「産業社会と人間」と「課題研究」の取り組みが将来設計・進路実現につながっていることが理解できるように、授業の在り方や内容を再考する。
- 9 相談活動は、全校体制で取り組み、生徒一人一人を支援し、進路目標を明確にさせる。
- 10 受験科目は、定期考査に大学入試問題や記述式問題を取り入れ、定期考査と大学入試問題と乖離を解消し、高大接続改革に適切に対応する。
- 11 トビタテ留学JAPAN、次世代リーダー育成道場等の制度を活用し、留学を推進する。

#### 【特別活動・部活動】

学校行事や部活動等を通し、学校や学級への帰属意識と教育活動への意欲等を育てる。また、生徒一人一人に達成感・成就感を体得させる。

- 1 教員の適切な指導助言等で、生徒の自主性を育て、学校行事への参加意識を高める。
- 2 体育的行事と文化的行事は、生徒と共につくり上げる。晴海祭を全教職員による組織的な体制で実施し、授業の発表の場に相応しい高い水準の学校行事とする。
- 3 部活動の活性化を図り、運動部系では生徒の体力向上につなげる。  
1年次生全員部活動加入を徹底し、活動が魅力あるものとなるように、教員が適切な指導力を発揮する。  
1年間に渡ってコンスタントに活動し、達成感・成就感が得られるものとする。
- 4 生徒会・委員会活動の活性化を図ると共に、地域連携・ボランティア活動を推進する。

#### 【開かれた学校づくり・地域貢献】

学校・地域・家庭との連携を深め、開かれた学校づくり・地域貢献を推進する。

- 1 地域の特性を活かしながらSDGsの視点を取り入れた学校主催の教科「人間と社会」の「奉仕」活動・職場訪問・ボランティア学習、地域主催のボランティア活動や企業主催のインターンシップに参加することで、地域から信頼されながら、社会性・公共性を培う。
- 2 学校活動の理解と協力を得るための年次通信等を各年6(6)回以上発行し、家庭の信頼を得る。
- 3 保育園、幼稚園、小学校、中学校、児童館及び高齢者施設等との連携を強化する。

- 4 課題研究を活用し、総合学科として自己の進路意識をより高く持たせ、第一志望に入るための支援を全教員で実施すると共に、連携大学との情報共有をさらに進め、事業を深化させる。

#### 【健康づくり】

健康に対する関心を高めさせ、心身の健康を増進させる。

- 1 「学校保健委員会」を年2(2)回実施する。
- 2 スクールカウンセラーの新生全員面接の実施や教員向け研修の実施など、スクールカウンセラーとカウンセリング委員会を中心とした生徒の心身の健康管理を、生徒部及び年次を軸とし組織的に取り組む。
- 3 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒に対応するため、特別支援教育コーディネーターの育成・活用を図り、学校全体が連携し円滑な教育活動を推進する。
  - ・特別支援教育コーディネーター及びスクールカウンセラーによる研修を、3(2)回以上実施する。
  - ・障がいのある生徒に対しての配慮を全教職員及び生徒が行い、共生社会を実現する。
- 4 全校生徒による年3(3)回の美化デー、1年次生が11月に実施するクリーン作戦や環境美化委員会の活動を通して、地域や学校の環境衛生の維持に努める。
- 5 保健だよりを年8(7)回以上発行し、生徒の健康に対する関心を高める。
- 6 食育を学校保健計画との関連を図りながら、全校的な取り組みとして推進する。

#### 【防災教育】

防災教育研究指定校として、本校の置かれた地域の状況等を十分に踏まえた防災教育を実施し、生徒・教職員の安全管理を徹底すると共に、地域と共に生きる姿勢をもった学校づくりを推進する。

- 1 総務部を中心に自治体防災課等諸機関と連携し、防災教育を組織的に取り組む。

数値目標 ( ) は昨年度の実績

- 1 他教科と教科外の3年以内の若手の授業観察を含めた相互授業参観 210(220)回以上
- 2 不読者率 2.5(2.7)%以内 蔵書貸し出し冊数：10,000(7550)冊
- 3 週当たりの家庭学習等時間(分) 学校休業後から実施する。
  - 1年次生 1日平日 50分以上 休日 60分以上 全体の70%が達成  
 $50分 \times 5日 + 65分 \times 2日 = 380分(277分)$
  - 2年次生 1日平日 60分以上 休日 75分以上 全体の70%が達成  
 $60分 \times 5日 + 75分 \times 2日 = 450分(219分)$
  - 3年次生 1日平日 100分以上 休日 120分以上 全体の80%が達成  
 $100分 \times 5日 + 120分 \times 2日 = 740分(245分)$
- 4 資格・検定及びコンクール
  - 〔語学〕英語検定2級 50名(26名) 準2級90名(42名)
  - 〔商業〕簿記(全商)2級以上：10(22)名 全商ビジネス文書検定2級以上：10(10)名
  - 〔情報〕ITパスポート：1名(0名) 〔家庭〕保育検定2級以上：20(22)名
  - 〔芸術〕全国レベル芸術(美術・書道・音楽等)展入賞：8名(4名)
- 5 遅刻回数：遅刻者6人以下/1日(6.2名)
- 6 進路第1・2志望合格達成率 95.0%(94.0%) 進路決定率100%(100%)
- 7 長期休業中(夏季・冬季)講習：68講座、延べ1,300名(68講座、延べ1,293名)
- 8 国公立大学合格者 2名(1名) 早慶上理大・GMARCH以上の合格者数 20名(18名)
- 9 晴海祭の来場者数：4,000名(未実施)
- 10 1年生部活動加入率 100% 全校生徒部活動加入率 95%(93%)
- 11 地域でのボランティア活動・連携活動：12回以上
- 12 異校種・異年齢交流：17回(17回)
  - ・一般需要費のセンター契約執行率を64(63)%以上にする。
- 13 会議、研修等
  - ・転入者オリエンテーション：2日以上
  - ・研究部主催研修会：3回以上
  - ・相談部主催2回以上(総合型選抜・学校推薦型選抜)
  - ・教務部主催1回以上(深い学びの授業)
  - ・分掌部会及び年次会：週1回実施、教科会：月1～2回実施、会議後は迅速に管理職に報告する。

#### (2) 重点目標と方策

### 【学校運営】

総合学科の教育理念、本校の教育方針、特色ある教育活動の成果、進路実績等を積極的に広報し、本校を第一志望とする中学生・保護者を増やす。

- 1 入学者選抜応募倍率（学力検査） 1.19 倍以上（1.18 倍）

### 【学習指導・進路指導】

新型コロナウイルス感染対策をしながら、学力向上と進路指導の活動に支障のないようにする。

- 1 進路第1・2志望合格達成率： 95%(94%) ・進路決定率：100%(100%)
- 2 測定し易い力を育成する。
  - ・「学力スタンダード」を「応用」レベルに設定するが、「発展」レベルを目指す。
  - ・基礎的、基本的学力定着の徹底及び応用力を育成指導する。
  - ・始業前、放課後、長期休業日中の自主的な学習活動を含む学習習慣確立に向け、組織的に指導する。
  - ・組織的な補習・講習を実施するとともに、個別指導をさらに推進する。
- 3 自己の特性を深く理解し活用する方法を身に付けるキャリア教育を推進し、測定し難い力を育成する。
  - ・「産業社会と人間」等で進路に対する明確な目的意識を構築する。（将来設計能力・情報活用能力等の育成）
  - ・「科目選択」による学びに対する強い動機付け及び、自由な個人裁量に伴う責任を果たすことでの「自己責任能力」（主体的に学ぶ力・意思決定能力・判断力等）を育成する。
  - ・生徒の学びを支えるための「プレ課題研究」「課題研究」に対する教員の指導力を向上させる。（思考力、判断力、表現力等の育成）
- 4 高い目的意識をもった進路を実現する。
  - ・キャリアカウンセラーやスクールカウンセラー、関係機関と連携しながら全校体制で「相談活動」をする。
  - ・相談部を中心に、受験形態〔総合型選抜、学校推薦型選抜、一般受験等〕別の戦略的な取り組みと校内研修会を開催する。
  - ・「課題研究」を活かし、第一志望へ進めるよう大学の指定校を開拓する。

### 【募集・広報活動】

学校説明会来場者・生徒・保護者等のアンケートを分析し、受検生のニーズ（時代性）に合った募集・広報活動の工夫と改善を図る。

- 1 総務部主導により、中学校訪問、出前授業を全教員3回以上学校外の説明会等を行う。また、生徒とともに学校見学会・説明会を作り上げ、生徒の自主性を育てながら帰属意識を高める。
- 2 ホームページは、タイムリーな掲載を心掛け510(507)回以上更新する。
- 3 受検生目線での学校紹介の映像を配信・パンフレット制作・学校説明会等を行う。
- 4 本校の教育活動を幅広く広報するために、中学校年1回・学習塾対象の説明会を年2回以上の実施と年次通信を年6(6)回以上、相談部だよりを年11(11)回以上発行して、学校活動や進学実績の提供と情報交換を確実にを行う。
- 5 新型コロナウイルス感染症の感染予防を行い、「新しい生活様式」に基づいた、授業公開、体験授業、部活動体験等を工夫して実施する。